

巨樹・巨木シリーズ-11

細田木材工業株式会社
顧問 細田 安治

山形県は巨樹・巨木の宝庫であり、由緒ある巨樹も多い。そこで今号もU氏の資料をもとに、前月号に引き続き、山形県の巨樹・巨木プラス福島県の巨樹1本をご紹介します。

◇^{まがりかわ}曲川小杉の大スギ

小杉の大杉(こすぎのおおすぎ)は、推定樹齢1000年といわれ根周り6.3m、樹高約20m、枝張り17m、山形県最上郡鮭川村曲川にあるスギの木である。「曲川の大杉」「夫婦杉」「縁結びの杉」とも呼ばれる。鮭川村の指定文化財、天然記念物に指定されている。

「小杉の大杉」とは「何ぞや」だが、小杉地区にある大スギ。その姿はスタジオジブリ製作のアニメ映画「となりのトトロ」に出てくるトトロを思わせることから、その名が知られるようになった。確かに似ている。しかし場所を変えて見ると、梢が2本三角屋根のように並び、キリスト教の教会を思わせるのは不思議なことだ。

尚、撮影時間は逆光にならない午前中とあり、最適な撮影スポットまで紹介されており観光客への対応も十分である。

鮭川村教育委員会の案内板によれば、「大杉は、根元から三叉状に幹が分岐し、上部は枝が簇生(ぞくせい)する。日本海側の「ウラスギ」に属し、最上峡谷に群生する天然杉と同種のもので神代(じんたい)杉(すぎ)とも呼ばれている。傍らに山神の小祠があるのは、この巨木を神木として信仰したことを物語る。かつてこの樽山大地の周囲から縄文土器と石器が出土していた」という。

◇筆者のこぼれ話

・ウラスギ

「ウラスギ」と「オモテスギ」は、スギの呼び名を生育地域でわけた呼称である。厳しい気候の日本海側で育ったウラスギと温暖な太平洋側および四国・九州で育ったオモテスギとは異なる遺伝子をもつことがアメリカの研究でわかったという。

・神代杉

鮭川村教育委員会の案内では曲川の大スギを「日本海側に群生する杉でしかも神代杉とも呼ばれている」とある。神代杉と言え、土中に長期間埋められた埋木を称する。なぜ現存する大スギを、埋木ス



曲川の小杉の大杉

ギを指す「神代杉」と呼ぶようになったのだろうか。筆者にはわかりかねるが、神代杉について少し説明したい。神代杉は色気が茶色に変わって一種独特の風味を持っていることから、日本の伝統的な工法による建築物にも使われた価値ある銘木である。このように変化した神代杉は各地で発見され市場に出てきており、貴重なものとして評価は高く丸太から高値で取引される。長尺広幅が必要な天井板などに使用されることが多い。

ただし、神代色に変化していることは長期間にわたり、大気に触れていないことから、もろくなっており掘り起こして空気に当たると変質してしまう木もあることから、神代杉はよほどの目利きの人しか扱えないものである。

<神代スギには2種類>

神代物には2種類ある。色によって茶色のものは茶神代、薄黒く変色したものは黒神代と言われ、本物需要の不足を補っていた。

<神代に似せて着色>

木造建築全盛時代には、貴重な神代物の需要が高まり材の手当てが出来ず、普通の杉を着色加工した人工神代物が現れた時代もあった。

広葉樹にも神代物が時々出回っている。特に海外では貴重な材として珍重がられている。気品のあるチョコレート色に変質したオーク材などは特に人気が高く、高級家具などに使われている。

さて、本題に戻る。

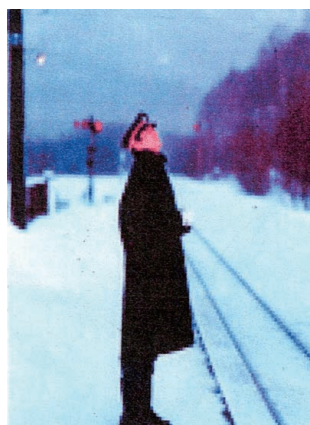
◇羽黒山の^{じじ}爺スギ

鶴岡市羽黒町手向、羽黒山参道、五重塔の近くに立っている樹齢1000年、樹高30m、樹周8.2m。国の指定文化財、天然記念物に指定されている。

爺スギの写真を見た筆者の第一印象は、人にたとえれば、数々の厳しい試練を乗り越え今なお矍鑠(かくしゃく)としている、背筋をピンと伸ばし直立しあたりを睥睨(へいげい)している姿、なんとなく近寄りたがたい厳しいなかにも、辺りに暖かく親しみ易い雰囲気을漂わせている人生の達人を見る思いだ。

どなたにたとえるか。頭の中で模索中、ふと思いついたのが、厳寒の北海道で廃線間近となった幌舞線の終着駅で駅長を勤める「ぼっぼや」を演じた高倉健の姿に重なった。イメージで言えば凛と立つ「しっかり爺さん」である。高倉健に「爺さんじゃないぞ」叱られるかな。イメージは厳しい風雪なんのそので、生き抜く姿をイメージしたかったので高倉健を選んだ。ご寛容を。

またほかにもこの爺スギのエピソードとして、講談社「日本の天然記念物」に、面白い話が紹介されている。「古くはこの近くに



背筋をピンと伸ばし「スクット」立つ「ぼっぼや」としての高倉健
高倉健の部分Wikipedia参照



爺スギ

婆杉もあった。いずれ劣らぬ巨木だったが、明治35年(1902)の暴風で、太い方のスギが倒れてしまった。ところが、どちらが「爺」で、どちらが「婆」かとなると、人によって意見がまちまちで、議論を重ねてもまとまらず、結局、「爺」「婆」の呼称はやめて、残った方を「親杉」と称することで決着した。それなのに、どういうわけか、指定の際は「爺スギ」で登録されてしまったのである。

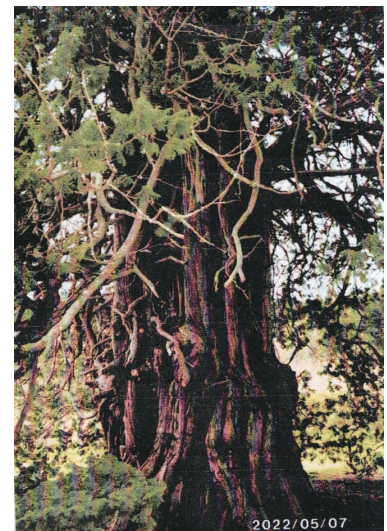
大自然の厳然たる存在の前には、呼称の違いなど些細なことなのだろうが、ヒトたるもの、大杉に笑われないようにしたいものだ。

呼称違いの流れで福島県の巨樹を、番外としてご紹介する。

◇番外沢尻のヒノキ(サワラ)

このヒノキと呼ばれる沢尻のサワラとは、推定樹齢約800年、樹高34.3m、根元の周囲11.8m、地上1.3mの幹囲9.8m、樹冠南北約20m、昭和49年に国の天然記念物に指定されている。持ち主は個人所有となっている。

現存するわが国の最大のサワラの巨樹である。地元(いわき市川前町上桶売字上沢)では「大ヒノキ」と呼ばれているが、正しい樹種はサワラである。この地元での呼び方というか呼び名が間違っただけで広がってしまった。このため地元では今でもサワラの樹を「ヒノキ、ヒノキ」と呼んでいる。地元は今となれば、目くじらたてずにヒノキでもサワラでも「どっちでもいい」のではないか。しかもこのサワラの樹は、日本一のサワラ、つまり現存するわが国随一のサワラの巨樹であり、国の天然記念物に指定されている。このような間違いは「ご愛嬌」とされているかもしれない。しかし我々「木材や」からすれば、「どっちでもいい」では困る。「ご愛嬌」で済まされないのではないか。ヒノキはあくまでもヒノキ、サワラはサワラである。Wikipedia参照



沢尻のヒノキ(サワラ)

◇石山熊野神社の大スギ

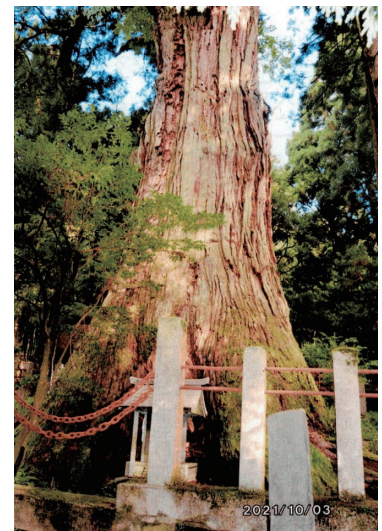
樹齢1000年以上、樹高24m、樹周11.3m 山形県鶴岡市水沢字熊前、石山熊野神社内にある。

「熊野神社の横綱大スギ」「熊野神社石山の大スギ」「田川の大スギ」等と呼ばれていた。嬰鑠とした爺スギとは真逆のイメージだ。一目で巨樹の持つ神秘性が伝わってくる。しかも横綱の土俵入りで四股を踏む姿と重なる。この横綱スギの根元の北側が1.2mほど高くなっており、その高地面での樹周は15mもあるために、これが横綱の化粧まわしをつけているように見える。そして緑の苔がさらに、横綱の化粧まわしを思わせる。このように想像していくのは楽しいものだ。

足元には、樹の根元を土足で踏みにじられぬよう、寄進者の氏名が記されたコンクリート製の化粧柱を回し、不心得者が立ち入らぬよう二連の鎖にれんくさりでしっかり防御してある。地域住民の信仰心により1000年を越えて大切に保存されていることが理解できた。昭和2年に天然記念物に指定されたが同7年(1932年)落雷によって火災となったが、地元氏子たちの必死の消火活動により焼けずに済んだ。さらに、昭和32年(1957年)の伊勢湾台風によって、その主幹が高さ24mのところ折損した。このように、数次に

わたる災害に遭遇しながらも信仰心が火災を消し止め、台風による枝の折損なども修復したおかげで、いまなお樹勢盛んで枝葉は天を衝くほどの勢いである。先祖代々の言い伝えを受けた子孫が忠実に樹をも守ったからである。人々の言い伝えがこの巨樹を「育て、助け、いまなお盛んなり」である。

「ここで学んだこと」としては、何事も養生が大切だ。養生次第により成果が上がり、次の世代へ伝えることが出来る。そこで筆者の持論である「古きを訪ねる」が登場する。「古きには貴重な情報があり、今の人はその情報を具現化して実行し、次の代へ伝えていく成果の連鎖」である。何事もかくありたいものだ。



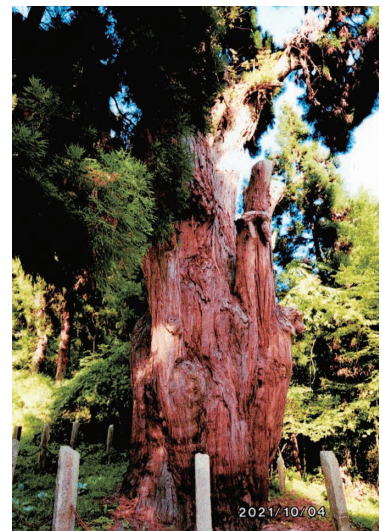
石山熊野神社横綱大スギ

◇津金沢の大スギ

山形県山形市東山字高沢（津金沢）熊野神社境内にある樹高39m、樹周9.2m、樹齢は1000年を越えると推定される。

熊野神社の西南方には、もう一株の老木があり共に雄スギ、雌スギとして崇め（あがめ）られていたという。弘化1年（1844年）ころ、その1本を切り倒したところ、村内に疫病が大流行したため神罰の致すところとして碑を建て供養を行ったと伝えられている。境内に「弘化2年建立大杉大明神」の碑が残っている。現存するのは雄杉の方である。

幹は大小多数に分枝するが、特に5本の大幹が幹分かれして並立直立している。写真をご覧ください。この写真では先端の幹の5本は確認できないが、幹がわかれている様（さま）がわかる。枝折れが発達してコブのような変形があちこち見られる。あれこれ想像してみると、生命力あふれる巨樹ではないか、たくましく見えてきた。こんな想像も楽しいものだ。また一つ楽しみを見つけた。続く



津金沢の大スギ

ドロッカーの名言

マネジメントの三つの機能

- 第一の機能 事業をマネジメントすること
- マネジメントの第一の機能：目標を創り事業をマネジメントすること

イノベーションで事業を決めるまでは悩め苦しめ、こうと決めたら、わき目を振らず専念しよう。

創業時と同じ考えで行動しよう。そして経済環境を変化させ、意識的かつ目的的に新しい経済環境を自ら創り出そう

- 木材やの事業マネジメント

木材やは地球温暖化防止時代持続可能な社会へ向けて脱炭素の目標を策定しわき目を振らず行動しよう。

続く